

納得のいくまで

植物生産環境科学科 Aさん（平成29年度卒業）

就職活動をこれから迎える皆さんへ、私がどんな就職活動をしていたのか、もっとこうすれば良かったことをお伝えしようと思います。

情報収集

私は農業系の企業に就きたいと考えていたため、リクナビやマイナビ、キャリアタス、またあぐりーんやあぐりナビのような農業系企業専門の就活サイトを利用しました。また企業の現場を詳しく知るためにインターンシップに参加し情報収集しました。インターンシップは実際の現場見ることや社員さんやパートさんの声をリアルに聞くことができたので、一番良い情報収集手段と実感しました。またパートさんの声は後の面接等でとても役に立ちました。

自己分析

私はこれが一番重要だと思います。これに関しては早い内にやっておけばよかったと後悔しています。将来就きたい分野については上記の通り決まっていたのですが、問題は、私はどういう人間なのかを分析することでした。これに関しては、私だけではどうすることもできなかったため、家族や友人、そしてハローワークの方と相談し、自己分析しました。何度も言いますが、自己分析は今の内から、早い内に取り掛かることをおススメします。

試験対策

SPI3は早い内から取り掛かってください。私は3月から取り掛かりましたが、試験では思うような結果が出ず、試験に落ちました。今でも早い内に取り掛かれればよかったと後悔しています。面接やグループディスカッションは回数をこなすしかないと思います。面接についてはあまり対策をしていませんでした。エントリーした企業で面接を受け、そこでの反省点を洗い出し、次の面接に活かしていました。面接が不安な方はハローワークでその対策をしているので是非行ってみてください。因みに内定先の採用担当者がおっしゃっていたことです。質問に対し、エントリーシートに書いてあることを暗記して伝えるのはNGとのことです。書いていること+αについて聞きたいとのことです。是非覚えておいて下さい。グループディスカッションについてはハローワーク、エンカレッジという学生が運営する就活団体のセミナーに参加し、対策を練りました。グループディスカッションは面接と違い、対策が非常にしづらいので、そのセミナーが開催される時は積極的に参加することをおススメします。

会社説明会

企業について深く知ることができる説明会です。また中々聞くことができない質問ができる貴重な機会です。説明会には必ず質問する時間が設けられています。その際は必ず質問することをおススメします。また説明会が終わった後にも質問タイムが設けられています。そこでもどんどん質問やお話ししてみましよう。私はこれをした結果、企業の方に顔を覚えてもらい、その後の面接でも気軽に話しかけることができ、内定をいただきました。せっかく企業と直接お話しできる機会なのに、何もしないのは非常にもったいないです。

最後に

就活は自分が納得のいくまで続けてください。自分の人生を決定する活動をおろそかにす

るのは非常にもったいないです。また今の時代は転職が当たり前なので、そこの企業に入社したから一生そこで働かないといけない訳ではありません。そのことを頭に入れつつこれからの就職活動に臨んでください。

不安だった就職活動。積極的な行動と支えてくださった皆さんへの感謝

森林緑地環境科学科 Bさん（平成29年度卒業）

これから就職活動を行う皆様はどのような仕事が自分に合っているか、また、どのような業種や企業があるのか分からなくて不安であるかもしれません。自分も最初緑化関係の仕事がしたいといった漠然的な考えしかなく、また、緑化事業を行っている企業についてほとんど知りませんでした。そんな自分が就職したいと思う企業を発見できたきっかけは、学校や各地で行われた合同企業説明会でした。合同企業説明会では、様々な業種の企業が数多く参加しており、その企業が特に何に重点を置いた事業を行っているか、どのような雰囲気なのかを働いている人から直接聞け、質問もでき、自分に合った企業を発見できました。そして、合同企業説明会で気になった企業については、個別の企業説明会に参加して、受けるかどうかを決めました。先生に企業について聞くのも大事かもしれませんが、企業説明会で直接企業の人と話をすることがより大事だと思います。現在、自分に合った業種、企業が見つからない人はもちろん、また、公務員を受けようと思っている人も選択肢を増やすということで合同企業説明会に参加することをお勧めします。

就職活動で自分が特に苦労したのはエントリーシートの作成と面接試験でした。それらの対策として就職支援センターの方々にはとてもお世話になりました。文章力のない自分にとってエントリーシートの作成は難しかったのですが、限られた範囲で自分の思いを企業に伝えるにはどのようにすればいいかなど一緒に考えていただき、何度も添削していただいて無事にまとめることができました。面接試験対策としての模擬面接では、実際の面接試験のような雰囲気で行っていただき、本番のイメージをつかむことができました。指導してくださった皆さんにはとても感謝しています。

就職活動は苦しいものでしたが、両親や先生の助け、指導してくださった皆さんのおかげで私は自分の就職したい企業に就職出来たと感じています。

第一候補がすべてじゃない

応用生物科学科 Cさん（平成29年度卒業）

私は就職活動を始めるにあたって、最初から化粧品業界に絞っていました。合同説明会に行ってもその業界に関連する企業ばかり訪問して、他のブースは素通りしていました。当時周りから「やりたいことがはっきりしていると思う」、「軸が決まっているんだね」、「自分のやりたいことが分からないからうらやましい」とよく言われていました。しかし今振り返ると、あれは軸が定まっていたというよりは視野が狭くしていただけなのだと思います。もちろん、好きな物事から職種を選んでいくというのは間違いではありません。ですが、最初のうちは様々な業界の仕事を見て、少しでも興味があれば説明会に行ってみる、エントリーしてみるといいと思います。また、友達と情報交換しながらいろんな業界を探っ

ていくのも一つの手です。

私は志望していた業界の企業以外に1つだけ食品関連の企業を受けていたのですが、最終的にその会社に内定を頂き就職を決めました。正直、その企業にエントリーしたのも最初は軽い気持ちで、地元で有名だし友達も受けるし一応説明会に行ってみるかくらいでした。自分の中ではそのくらい気楽に構えていた企業だったので、面接でもリラックスして自分の思ったことが素直に話せたのだと思います。反対に志望していた業界の面接では、緊張で話したいことがとんでしまったり声が小さくなってしまったりしてしまいました。選考において適度な緊張感は必要だと思いますが、話す内容を丸覚えするなどの準備はアドリブがきかなくなるので、絶対に伝えたいことを頭に入れてリラックスして受けるのが一番だと思います。それに、人事の方がどこをみて合格・不合格を決めているかは全く分かりません。最低限のマナーがなっていれば、不合格通知をもらったとしてもその企業に合わなかっただけだと、あまり落ち込まなくて大丈夫です。

就職活動の進め方は人それぞれです。早く内定をもらって活動を終わらせたからすごいとかではないし、途中で企業選びの方向を全く変えるのもありだと思います。就職はこれから先の長い人生がかかってきます。まわりの話を聞くと焦ったり不安になったりすることもあります。自分が納得のいくまで活動を続けることをおすすめします。卒論研究との両立など、スケジュール管理も大変ですが、ずっと頑張りっぱなしは疲れちゃうので、適度に休憩しつつ自分のペースで頑張ってください。

2017年、夏、就職活動

海洋生物環境学科 Dさん（平成29年度卒業）

私の就職活動を振り返って得られた事を簡単にまとめてみました。

まず初めに、多くの人は就職活動に対して漠然とマイナスなイメージを持っていると思います。自分が何をしたいのかが分からない。やりたいことが見つからない。そういった考えに囚われる人は例年一定数存在するようです。私はギリギリまで公務員と迷っていたこともあり、実際に就職活動を始めたのは解禁直前で、学内の就職活動セミナーにも満足に参加していない状態でした。

・正しい情報を集めること

そんな中でまず重要なことは情報を集めることでした。

宮崎大学主催の説明会や大手リクルート主催の説明会に参加したり、インターネット等を用いて情報を集めました。この時注意すべきなのが情報の取捨選択です。説明会で来ていただいている企業の方々はマイナスの事にあえて言及することはありません。さらに福利厚生や残業時間、有給取得率といった質問はご法度という風潮があります。そういった縛りが存在する中でいかに自分に価値のある情報を抽出できるかが後々重要になっていきます。

・軸を見つけること

幸い2017年は売り手市場ということもあり、条件を選ばなければ誰しも内定を手にすることが可能な年でした。裏を返せば就活生は少なからず選ぶ立場にあるということです。しかし、莫大な数の企業や職種の中から新卒という一回きりのカードを切ってどの企業を選

ぶかとはとても困難でしょう。そこで自己分析や企業分析をまとめた就職活動に対する自分の軸を見つけることをお勧めします。自分の軸を見つけることで企業選びだけでなく、エントリーシートや面接での臨機応変な対応が容易になります。

・最後に

就職は大学進学や結婚と並んで人生において重要なイベントの一つだと私は思います。そこに全力でエネルギーを費やすこと自体は自然なことです。しかし、就職はあくまで通過点でありゴールではありません。企業から多くの不採用通知をもらおうと自分自身が全否定されたかのような錯覚に陥る人も多いでしょう。あくまで通過点という事を忘れずに。「自分の魅力が分からない企業なんだ」くらいの心持ちで次にいきましょう。

私は福島県出身で東日本大震災を福島で経験しました。当時はいろいろ大変でしたが、月日は流れ、気が付けば宮崎大学で様々なやりたいことを経験して無事就職活動も終わることができました。物事は意外とどうにかなるように出来ているみたいです。皆さん、気張り過ぎずに悔いのない就職活動を頑張ってください。

民間企業の就職活動を終えて

畜産草地科学科 Eさん（平成29年度卒業）

私が就職活動を振り返ってやって良かったこととやっとならば良かったことを紹介します。
やって良かったこと

学内で開催される就職講座(リクナビ、マイナビ、キャリアタスなど)、ハローワーク、生協の就職講座を受けられるものはすべて受けたことです。私は3年生の7月から受けはじめ、その講座で教わったことを実践していく日々を過ごしました。就活で何をやったらいいかわからず時間だけが過ぎていくことを避けることができました。ぜひ農学部棟の階段に大きく掲示されているものや就職関連掲示板を活用してほしいです。

あと一つあり、それは面接場所周辺の観光をしたことです。面接時に、会社周辺の状況をどう思う？と聞かれたり、ここの観光名所行ったことある？と聞かれたりしたからです。私は息抜きに面接の前日に観光しており、面接時には観光した話で盛り上がり面接を気持ちよく終えることができました。

やっとならば良かったこと

日記をつけることです。自己PRや学生時代に頑張ったことを書く時に、出来事から書くことで自分の性格が書きやすかったからです。しかし、私は就職講座で教えていただくまでは全く日記をつけておらず、自己PRや学生時代に頑張ったことを書くことに苦戦していました。そこで、その日から思い出せることはすべてノートに書きだし、またその日以来、苦労したこと、頑張ったことなどを日記につけるようになりました。その日記の内容から自己PRや学生時代に頑張ったことを書くことができました。また、日記の内容を記録しておくことで、面接の時に詳しく聞かれてもすぐに思い出すことができました。

ノートに日記をつけることが難しい人はスマホに記録をしておくのもいいと思います。また、友人とのラインのやり取りからもいいヒントがあると思うので、是非日々の出来事の記録を行ってほしいです。

周りには就職活動を手助けしてくれる情報がたくさんあり、親切にわかりやすく知らせてくれる恵まれた環境があります。また掲示板を張ってくださる方、講師の方が私たちのために時間を費やしてくださいます。その環境に感謝をしながら就職活動を頑張ってください。

「牛の獣医さんになりたい人はいませんか？」

獣医学科 Fさん（平成29年度卒業）

僕の勝手な予想ですが、あまりいないと思います。

獣医学科の人の進路は小動物、大動物、公務員、企業、進学などいろいろありますが、大動物の獣医になる人は少数派です。理由は色々で、力仕事が多かったり、夜中の分娩に行かないやいけなかったり、都会の就職先が少なかったり、結構しんどそうな割には小動物の病院みたいに可愛い犬や猫と触れ合ったりできるわけでもなく、お給料もすごく高いところは限られていること等が挙げられると思います。

それでも私が大動物（牛）の獣医師になろうと思った理由と就職先を決めた時のことを書きます。

最初私は犬や猫の獣医師になりたいと思って大学に入りました。そして1年生の夏から、動物病院でバイトをさせてもらいました。そこでこれでもかというくらい院長の先生に嫌われてしまいました。昔から口下手で若干暗めの性格だったのと、お世辞にもきっちりした性格とは言えない私が上手に獣医師の先生や動物看護師さんと一緒に仕事をこなせるわけもなく、嫌われるのは時間の問題でした。

しかし、初めてのバイトということもあって、頑張って1年続けました。それがさらに事態を拗らせてしまい、バイトの日は朝から息が苦しくて、そんなのだから気をきかせて何かをするということができませんでした。狭い動物病院という空間は私にとって牢屋のように感じました。

今でも犬猫はすごく好きですが、もう小動物の獣医師になりたいという気持ちは綺麗さっぱり消えていました。

それからしばらく経って研究室に入ることになった時、ひときわ美しい先輩が牛を扱う研究室の紹介をしてくれて、迷いながらもその研究室に入りました。それからほとんど毎日が楽しくて、性格がちょっと明るくなりまして、卒業してからもこういう生活を続けたいと思いました。一番上に書いたようなことは大した問題のように思えなくなっていました。ちなみにその先輩が卒業された後、告白した時はやんわり断られました。

そして牛の獣医師がどういうものかを知るために岡山のNOSAIに実習に行きました。岡山以外にもいろんな県に行きました。それで知ったのは、仕事内容だけでなく雰囲気まですごく似ていることでした。就職先選びの明確な基準なんて設定できなかったのも、最後は勘で決めました。でも多分僕はそこでならある程度明るくなれるんじゃないかと思っています。

自分語りばかりになってしまいましたが僕から皆さんに伝えたいことは、大動物に限った話ではないですが、もし就職先に迷っている人がいたら大至急貴重な時間を割いてでも色々な職種・職場へ実習に行って、自分が一番気に入ったところに就職してください。ということです。

公務員試験を終えて

植物生産環境科学コース Gさん(平成 29 年度修了)

私が公務員試験を受験して、これは大切だなと思ったことがいくつかありました。これから就職活動を行う後輩たちの参考になればと思います。

まず筆記試験について、こればかりは勉強をがんばるしかないと思います。しかし、ただ勉強するだけでは厳しいのは言わずもがなです。私は、公務員講座を受講していました。授業で使うテキスト以外に問題集などもたくさんありましたが、正直全部消化するのは無理でした。時間が足りません。そこで、私は毎週実施される模擬試験に重きを置いて勉強しました。模擬試験で間違った問題のコピーを切り抜いて、ノートに貼り、数的処理なら「自分の考えが模範解答の解説とどこでズレたのか」や歴史や現代社会なら「自分の選んだ選択肢のどの部分が間違っていたのか」、などの「自分なりの解説」を作りました。教養問題だけでなく専門問題(私の場合は農業)も同様に作りました。こうすれば、自分が問題を解くときミスしやすい部分や間違っていて覚えていることを修正しやすくなります。試験の日はそのノートだけをもっていきました。基本的には早く試験の準備することも大切ですが、その中で工夫しながら勉強していくことが大切だと私は思いました。

次に面接について、大切なことは何度も練習することです。1次合格発表の後に面接カードを作成したりするので、時間もそれほど無いですが、一部書けなくて空欄があってもいいので、まずは書けるところから書いて、一度面接の練習をしてみてください。公務員講座の先生やキャリア支援課の方は一緒に考えたり、自分の長所を教えてくれたり、添削してくれます。とにかく何度も練習して、何度も添削を受けていけば、良い面接カードになりますし、面接での挙動も自然になります。そして何より自信がつきます。自信を持つと面接を受けている間に迷いがなくなる気がするので、是非自信がつくまで、少ない時間でできるだけ練習してみてください。あと、元気！グループ面接ではないのに、他の人の面接の声が聞こえてくる状況もありました。他の人の負けないように、大きな声で元気よく答えるように意識しました。

公務員試験は合格発表までがとても長いです。周りの同級生や友達が次々と就活が終わり、「自分だけが内定がまだ無い…」という気分になり、プレッシャーを感じる時もありました。そんな時は適度に休んだり、友達と話しをしたりして何とか元気を保っていました。皆さんも自分のやり方で元気を保ってください。筆記試験を工夫して勉強すること、何度も面接の練習・添削をすること、それから元気。これが皆さんの役に立つと思いますので、他の方の意見も参考にしつつ、これから就職活動をがんばってください！

修活

森林緑地環境科学コース Hさん(平成 29 年度修了)

就活を終えた今、ほとんど就活対策をしていなかった私が内定を頂けた理由を考えてみると、就活と大学院における研究活動に整合性があることがみえてきました。ですので、就活と大学院の関係について私の就職体験をもとにお話ししようと思います。それが皆さんの就

職活動の一助になれば幸いです。特に、日々の研究の忙しさと就活と研究の両立に不安を抱えている M1 の学生に読んで頂きたいです。

私も M1 の時はそんな不安を抱えている学生の 1 人でした。研究と両立するためには何十社も受けられないと思いましたが、本当に行きたい企業だけ受けました。いざ、就活が始まると、就活と大学院で求められることが類似していることに気が付き、多少不安が軽減されたことを覚えています。

まず自己分析について。自己分析とは、自分が壁にぶつかった時、どういう風に考え、どう解決するのかということをもっと正しく自分で認識することではないかと思えます。大学院では研究や研究以外で、壁にぶつかることが多いです。その時が自分はどういう人間かを認識する絶好のチャンスだと思えます。ですので、大学院自体、自己分析装置のような役割を果たしているのではないかと私は思いました。

次に、エントリーシート (ES) は学会の講演要旨に似ていると思えました。両者とも重要なことを短い文章で分かりやすく書かなくてはなりません。学会へは何度か出ていたので、ES で要求されるスキルはいつの間にか身につけていました。

最後にグループディスカッション (GD) と面接です。これらはゼミでの発表や質疑応答に似ていると思えました。私の所属している研究室のゼミは、発表者が一人、他の人は聴衆で質問や意見を伝える形式です。このゼミで、発表者の話を聞いて、疑問に思ったことや間違っているのではと思うことを積極的に発言していたので、GD での議論にも億することなく参加することができました。また、面接試験は、質問に対して端的に必要な答えをしなくてはならない点で、ゼミでの教授からの質問と同じだと思えました。

ここまで述べたように、就活で要求されるものと大学院で養われるスキルはほぼ同じなので、特別な対策をしなくとも、一生懸命研究していたことが内定に結び付いたのではないかと思えます。就活の準備をせずに研究をすることは、一見内定への遠回りのように見えますが、もしかしたら近道なのかもしれません。健闘を祈ります。頑張ってください。

初めて感じた自力の限界と他力を巻き込む力

応用生物科学コース I さん (平成 29 年度修了)

就職活動のスタートを切ったのは 2016 年 9 月修士 1 年だった。私は、先を見据えてコツコツと準備を積み重ねる習慣があったため、最後はいつも確かな手ごたえを感じていた。就職活動も今までの試験や試合と同じモノだと甘く捉えながら準備を始めた。最初は、多種多様な業界と企業を知りたいと思い、研究や学会の合間に業界地図や就職四季報等の就活本を読み込み、少しずつ情報を集めた。しかし、いつも通りであれば、準備を積み重ねた分の安心感が、何時になっても全く湧いてこなかった。寧ろ、業界や企業をどこまで調べれば良いか、終わりの見えない調査に対して焦りと不安が募った。この初めて感じる重圧に眠れない日々を過ごしながら、根拠のない大丈夫を自分自身に言い聞かせた。

年が明けて刻々と近づく本格始動の前に、研究と就職活動の両立の難しさを感じ始めた。この頃から同期の中では、研究室に断りなく休む者もいたが、それは何かに負ける気がしたため、意地でも両立を粘ることを決意した。もっと効率よく就職活動を進める方法がないか、

ネットで調べていく中で、就職活動コンサルタント T さんの存在を知った。T さんは、就職選考の第一関門である ES を年間 10 万通審査され、誰よりも熟知する ES の書き方講座を開催していた。その講座を受講したところ、企業側が意図する内容を ES から読み解く方法や高確率で落とされる NG ワード等を徹底的に教え込まれた。今後の就職活動において T さんは頼りの綱になるかもしれないと思い、直々に ES の添削をお願いした。私は厳しく的確な指摘のもと、日によっては 10 時間かけて何度も文章を書き直した。お陰で、3 月以降の ES 選考は高確率で突破できたため、徐々に自信がついてきた。

ES 選考を突破した中で、通過率が低い化学企業 S 社の最終面接の機会を得た。面接会場には有名大学の就活生が立ち並ぶ中、負けずと強気な姿勢で臨んだ。面接が無事終わり、他の就活生と話しながら帰る最中で、何かの違和感を覚えた。ここに来た就活生は、全員 S 社のリクルーターを介して優先的に選考されていたのだ。最初は、他の就活生とは異なる評価で通過したことに嬉しさを感じたが、結果の連絡を受けて一気にどん底に落とされた。何が悪かったのか、現実を受け止められずにいた私は、T さんが属する就職支援会社に原因を尋ねたところ、隠し事なく、就職活動の裏側を語ってくれた。大手になればなるほど、自分を推してくれるサポーターがいないと選考が難しくなる、と。現実を思い知り、周りに強力な助っ人がいなかった私は、自分を全面的に売り込んでくれる人物を探し、人材紹介 R 社のアドバイザー K さんに辿り着いた。

K さんは、自分と企業が各々で求める希望や条件を確認した上でベストな求人票を紹介し、面倒な応募の手続きや面接日程の調整等を準備してくれた。また、求人票の選考前には面接対策を、選考後には企業の面接担当者から良かった点や改善点を聞くことができた。そのため、独自の就職活動に感じた重荷が減り、本来の自分で臨めるようになった。結果として、求人票に選考した 6 社中 5 社は最終面接まで進み、5 社の中で自分に最適な会社を選ぶことができた。

改めて振り返ると、早い段階から独自の限界と就職活動の事情を知り、多くの方々を巻き込みながら自分に見合う会社に出会えたため、最後に悔いは全く残らなかった。今回リアルティな就職体験を記載したため、今後これを読む方々の中が不快を感じるかもしれないが、少しでも参考になれば幸いだ。

自分の『なんとなく』を信じる

海洋生物環境科学コース J さん（平成 29 年度修了）

私の就活は一般的な就活生よりもゆるーいものだったと思います。そんな私が就職活動で大切にしていたことは、自分の直感を信じる事と気合を入れすぎない事です。修士に進学したものの「将来絶対これがしたい」といった明確な夢が私にはありませんでした。なので、やりたいことがハッキリ決まっている人は読むだけ無駄な時間になってしまいます、読まないでください。

私たちの親世代では一度入社したら定年までが当たり前の時代でしたが、今では転職を繰り返してキャリアを積むなんて話はよく聞きます。それを見越して短期限定採用を実施している企業もあるほどです。人生は卒業した大学で決まるわけではないし、就職した会社や組

織で決まるわけではないと思います。なので、社会人のスタートを切る場所をただ選ぶつもりで就職活動を行いました。就職して、どれだけ経験値を積んで、どれだけ学びが得られるのか、そこから挑戦したいことが見えたらいいなあとは思います。どの会社に入っても必ず得るものはあるはずなので、気楽にいこう！と自分に言い聞かせていました。就活は宮崎を離れ地元で行っていましたが、週に3～4日就活するくらいで毎日研究室に行っていた時よりも楽に感じました。最終的にエントリーした企業は10社ほどで、就活生の平均の三分の一くらいです。自分のやりたいようにやっていたので「全部ダメでも仕方ないや。そんな時はそんな時。」くらいに思っていました。

どれだけ会社のことを調べても実際に働いてみないと分からない事が殆どですし、どれだけ業績の良い会社も5年後10年後はどうなっているか正直分かりません。それなら、面白いと思える仕事をしたいなと思い大手や中小など拘らず様々なジャンルの会社の説明会に足を運びました。説明会は結構楽しかったです。自分のやってみたい職種や仕事の幅が広がりましたし、色んな会社があって、様々な働き方があることを知りました。実際に会社の人に会って話を聞いてみると、「なんかいいな」と「ここは違うな」とハッキリ別れると思います。それは、仕事の内容かもしれませんが、単純に人の魅力かもしれません。自分の直感を信じて企業を選択しました。

集団面接や個人面接、グループディスカッションなど経験しましたが、自分らしく振舞うことを大切にしていました。今の自分をちゃんと見てもらって選ばれたかったからです。なので落とされても、相性悪かったのかなくらいで気楽に、気合を入れすぎずに取り組めたらいいのかなと思います。自分の行きたい企業に入ることも大切ですが、それ以上に入社後どれだけ頑張れるか、どれだけ成長できるかだと信じているので、来年から気を引き締めて頑張りたいです。

(タイトルなし)

畜産草地科学コース Kさん (平成29年度修了)

就職活動を終え、卒業を待つのみとなった今になっても、内定獲得への“正解”が何なのかはよく分かりません。それでも、約半年間の就職活動を通して見えてきたものがあります。そこで、今回は、就職活動を始める前の過去の自分宛てにメッセージを書きたいと思います。これから就職活動を始める皆さんにとって少しでも助けになれば幸いです。

そろそろ就職活動始めなきゃと思っはいるけど「就活って何が正解か分からないし、何をどう頑張ればいいのか」と不安でいっぱいだと思います。まずは、少しでも興味を持った会社にエントリーすることです。そこから就職活動は始まります。そしてこの時期に、自分がどういったスタンスで就職活動を進めていくのかを考えておくといいと思います。自分の方向性がしっかり決まっていると周りに振り回されずに自分のペースで就職活動に取り組むことができます。

就職活動が本格的に始まると、会社説明会に参加することになるでしょう。これまで、あなたには社会人の人と話す機会があまりなかったと思います。少しでも気になったこと、聞いてみたいと思ったことは質問するようにしてみてください。そして、エントリーシートを

書く時や面接の場面で考えてほしいことは、自分が採用担当者だったらどういう人を採用したいかということです。これを考えることによって、エントリーシートは読みやすくなり、面接での印象もよくなるはずです。この時、就活本やネットの情報に振り回されないように。自分の中から出てきた言葉を大切にしてください。

人より緊張しやすいあなたは、面接の度に手は震え、吐きそうになっていることでしょう。それでも、やるしかないので頑張ってください。必要以上に自分をよく見せようとしなくて、普段より少しだけ胸を張って、はきはきと受け答えができれば十分です。初めての面接は上手いかないことだらけです。選考の結果に一喜一憂せず、失敗を成長に変えるようにしましょう。

就職活動を終えたあなたは、今より何倍も成長しています。初めて経験することばかりで不安になることもあると思います。しかし、あなたは就職活動を通して、“自分で考え、行動すること”の大切さを学びます。最後に、周りの人々への感謝を忘れず、楽しい未来を想像しながら就職活動に取り組んでください。幸運を祈ります。